



南極観測隊員とは

南極観測隊の仕事

南極観測隊の仕事は、大きく「観測系」と「設営系」に分かれます。

観測系 気象、雪・氷、オーロラ、生物、地震、重力、地形、海洋などの観測や研究を行います。

設営系 昭和基地を中心とした観測隊員の活動生活基盤（発電、車両、造水、通信、医療、調理、
汚水廃棄物処理、建物設備、ごみ処理など）を維持します。
専門的な知識と技術が必要なため、免許や資格を条件に一般公募される分野もあります。

現在の南極観測隊のスケジュール

観測隊員は、越冬隊と夏隊に分かれています。越冬隊員は、1年を通して南極に滞在し、研究観測、設営を行います。夏隊員は、南極の夏の時期（日本では冬12月～2月中旬）に、その時期にしか行えない観測や設営作業を行います。現在、越冬隊と夏隊は11月下旬に同時に日本を出発します。夏隊員は前の隊の越冬隊員と翌年3月に帰国し、越冬隊員は1年を南極で過ごしたのち、次の隊の夏隊と共に翌々年の3月に帰国します。このスケジュールは、第1次隊の頃からほとんど変わりません。

※年によっては、観測隊本隊とは別に、「別働隊」として南極に行く隊員もいます。その場合、スケジュールは本隊と異なります。

【南極観測隊の昭和基地滞在スケジュール】

	2019年 11月	12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月
しらせ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
60次越冬隊	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
61次夏隊	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
61次越冬隊	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
62次夏隊	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
62次越冬隊	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

南極の夏の時期の昭和基地の人口は100人以上になり、冬の時期は、約30人となります。

現在、毎年11月中旬に南極観測船「しらせ」は日本を出発し、2週間をかけてオーストラリアに向かいます。そして、11月下旬に観測隊員は空路でオーストラリアに行き、先に到着している「しらせ」に乗船します。オーストラリアからは、海洋観測などを行いながら、約3週間かけて昭和基地に行きます。

第1次隊のときは、日本から観測船「宗谷」に全員が乗り込み、シンガポール、南アフリカのケープタウンを経由して南極まで行きました。たけしやカラフト犬たちは、隊員と一緒に2ヶ月もの間、船で生活したのです。



【「宗谷」船上で撮影された第1次隊の集合写真】